



平成26年11月25日 第4巻(第5号)

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

## もくじ

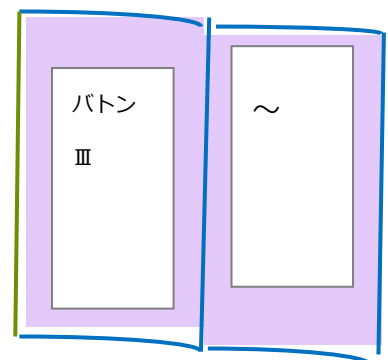
1. 現地活動報告 協力員
2. 災害支援チームからのお知らせ
3. 災害支援ニュース発行のお知らせ
4. あとがき

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」  
を発行することとなりました。

2015年2月の発行に向けて

準備中です。

しばらくお待ちください！！



「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」 発売中！！

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」 発売中！！

詳細は“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

## 1. 現地活動報告

継続してくださっている協力員さんの報告です。現地職員にとっても、継続支援は支援の幅が広がります。そして、そこからクライアントとの信頼関係を紡いでいくことだと思います。

そして、現地職員の研修等で不在になった 10 月を支えてくれた協力員さんのサポートに感謝！

.....

### 協力員 長谷川 敦氏

東北理事 仙台循環器病センター

(宮城県) 活動期間：2014/10/15

男の遊ぼう会 定例参加

今回は、秋の釣り/バーベキュー大会に参加  
定例の時間からの参加ではありませんでしたが、活  
動時間は現地 10 時から 11 までの 1 時間程度  
であり、時間の制限の中でも新規 1 名対象者

との交流、漁港での釣りに私も 1 匹釣り上げ  
たこともでき、有意義でございました。定例  
の参加になり、他メンバーとも交流ができた  
ました。

活動場所が漁港であり、現地からの帰りの移  
動時間も考慮しなければならなく、惜しみな  
がらの帰路でした。

☆☆

### 協力員 菊池 知憲氏

総合南東北病院

(宮城県) 活動期間：2014/9/17

午前中は男の遊ぼう会の餃子作りの手伝い  
を行った。自宅で餃子を作る練習したり、上  
手に包める機材を準備する方もおり、この会  
の活動を皆楽しみにしているのが参加者の  
様子から伝わってきた。女性陣のサポートを  
受け、各々が材料を細かく切る、焼く等の役  
割を果たされていた。完成した餃子は非常に  
美味しく、出来栄えに皆満足されていた。今  
回は参加者同士の雰囲気さがさらに良くなり、  
会話が途切れることがなく、何時間でも話が

続くのではないかという状況であった。また  
次回以降の会のあり方、参加希望者の受入れ  
をどうしていくか等、会の運営に関しても積  
極的に意見を発言する場面も見られてきた。  
次回は屋外で芋煮会をする予定となり、会が  
終了した。午後は一人暮らし、脊髄損傷後遺  
症で日常生活は自立しているが、自宅にこも  
りがちである男性宅を訪問し、男の遊ぼう会  
の参加を促したが、自分には今のところ必要  
ないということであったが、継続して訪問し、  
参加を促す方針となった。

### メッセージ

今も被災者の方々は、厳しい状況におかれ、やり場のない気持ちを抱えています。男の遊ぼう会は特に孤立化しやすい男性にとって必要な場所です。私としてはこのような会の運営方法、参加者の変化等を勉強する機会になっています。



### 協力員 荻野 秀樹氏

利根中央病院 (群馬県)

活動期間：

2014/10/16~2014/10/17

今回初めて参加させていただきました。以前から災害支援活動に参加してみたい気持ちはあったのですが、「何もできないんじゃないか?」「現地の被災者の方やスタッフの方に逆に迷惑をかけてしまうかもしれない。」と躊躇していました。

しかし、今回おもいきって参加してみても良かったと心から思います。現地では主にスタッフの方と一緒に仮設住宅への訪問を行いました。そこでは復興公営住宅の申し込み等進めるにあたってご自身では手続きが困難な方への支援、コミュニティの人間関係の調整、関わりに拒否的な方へ粘り強く信頼関係を作っていくような働きかけなどを通じ、震災から3年以上経過した今もソーシャルワークがとても必要とされていることを実

感しました。

また、18日には現地スタッフの方のご厚意により大川小学校や雄勝病院跡地などへ訪問させていただきました。

滞在できた期間は非常に短かったですが、実際に行ってみて、活動に参加できたことで自分の中で様々な思いや気づきが芽生えた気がします。

できれば、また現地の活動に参加したいと感じました。

### メッセージ

私のように興味があっても参加に躊躇されている方もいらっしゃるかと思います。業務の都合等大変な部分もあるかと思いますが、参加することで得られるものも非常に大きいと思いますのでぜひぜひ参加していただけたらと思います。現地の食事もとてもおいしいです。



## 協力員 葛田 衣重氏

千葉大学医学部付属病院 (千葉県)

活動期間：

2014/09/01～2014/09/03

2011.5 遊樂館（福祉避難所）以来の活動です。わずか3日間でしたが支援同行、ミーティング参加などをおして現地職員3名が良好な内外の関係を基に安定して活動されていることがわかりました。直接の支援では、復興支援住宅に当選した方の入居申請書類の確認と市役所提出の付き添いに同行しました。申請書類の多さにビックリ！加えて提出時に初めて分かった個別事情への対応が役所の担当者でも難しく、現地職員の付き添

いが効を奏した結果となりました。仮設住宅に独居の方の定期訪問への同伴では、仮設生活の長期化により様々な問題（今回は隣人の行動への苦情と対応）が起きており、本人だけでなく集団への働きかけも合わせて考える必要がありました。また活動期間中、笹岡統括が来石され、包括支援センター長長医師の訪問にも畑中現地責任者と同伴し、現状の確認と次年度事業の構想について話し合いました。もともとあった資源を活性化させ新たに創設する資源が全体をサポートする石巻ならではの地域包括ケアシステムづくりが検討されていました。

### メッセージ

石巻現地では、アウトリーチ、コミュニティワーク、地域保健計画への参画、など医療ソーシャルワーカーにますます求められる技術や支援が日々行なわれています。保健医療機関をベースとして勤務している多くの皆様にとって、石巻での支援活動は災害復興支援という枠組みから、自らの実践を振り返る貴重な機会になるのではないのでしょうか。現地職員3人の女性は皆様頼もしく、どんな方でも暖かく受け入れてくださいます。

JR 仙台～石巻間は一日1往復快速、片道約1時間があります。お時間の合う方にとっては快適ではないかと思えます。

## 石巻っ子をささえる若者もいるんですよ！



“TEDIC”という特定非営利活動法人が、「ひとりぼっちがないまち、石巻」をビジョンに掲げて、震災後に活動を始めたそうです。

私は、設立者の青年に多くのことを学びました。震災から始まる「つながり」と「大学生が成長していく場作り」の延長線上にある、日本の将来に心が強くなるおもいになりました。

「ひとりぼっちがないまち、石巻」は、震災により壊れた地域のつながりの修復や、新しい場所でのコミュニティ立ち上げ関わる活動をしています。

特に子どもたちのために、学校や家庭での不安や焦り…ストレスなどを言える場所、気持ちを受け止めらる場所、頼られる大人になれるようにと、学習サポート、居場所の提供、不登校サポートを通して心の声を聞こうとしています。そして、「安心しておとなになれる」ことを知ってもらうために、ちょっと年上のお兄さん、お姉さんが石巻市内のさまざまな場所で曜日ごとに学習支援を含めた活動をしています。

私は、ずっとそっと応援しています。みなさんも、よかったら石巻でがんばっている彼らを応援してくださいね。

<http://www.tedic.jp/>

文責とみなが

### 3. 災害支援チームからのお知らせ

#### 【1. 協力員募集】

##### 現 地

現在、1日にあたり上限2から3名で募集しております。

現地までの旅費・交通費は自己負担をお願い致します。

活動日程につきましては下記のようにお願い致します。

期 間： 平日3日以上、

受入日： 期間を満たす曜日（土、日、祝日は活動致しません。）

但し、上記以外であれば支援活動が可能な場合は現地担当までご相談ください。

※ 出発2日前までには（到着時刻等を含めて）は必ず現地担当にご連絡ください。

今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。

ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

##### 事 務 所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いません。

ご協力お願い致します。

#### 【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回予定： 10月X日

#### 【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、



本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

ボタン I :URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

ボタン II :URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

## 【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

## 【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



4. 災害支援ニュース 次回発行のお知らせ

発行予定は 12 月 XX 日です。

5. あとがき

災害支援チーム事務局から

担当 金子

今年も残り少なくなりました。

“光陰矢の如し”です。駆け足で日々が過ぎたように感じます。

「毎月発行」を目標にしていますが、なかなか予定通りにいきません。

12 月（第 4 巻 6 号）は是非とも年内に発行したいと思います。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース  
平成 26 年 11 月 25 日 第 4 巻 5 号  
作成 日本医療社会福祉協会  
災害支援チーム事務局